

1 幼稚園の教育目標

- ①意欲のある子どもに育てる。
- ②人を受け入れることの喜び、人を受け入れることの喜びを育てる。
- ③豊かな自然環境の中で、原体験になるいろいろな体験をしていく。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ①子どもの生活の質を上げて保育活動の充実を図る。
- ②教職員の労務管理の適正化を図る。
- ③幼児教育の重要性を地域等に発信をしていく。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価点は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す。) 評=評価点

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評	幼稚園としての反省と改善策	評	意見
保育の計画性	あそびを中心とした保育計画がなされているか？ 連続性のある保育と設定保育が、適切に実施されているか？	B	前年度に保育計画として確認したことが、活かされないことがあった。次年度へ向けての考察や提案を行かせるような記録の保管を考えていきたい。また、今年度も子どもが自発的に外へ出る時間が少ない。次年度に改善をしていきたい。	B	是非、前年度の反省を、十分に行かせるような工夫をしていくようにお願いしたい。
保育のあり方 幼児への対応	ひとりひとりの園児の園生活の質を高める取り組みがなされているか？ 個々の子どもの課題を意識した関わりが、適切に行われているか？	A	概ね、気になる子どもへの対応はできていると考えている。今後とも、各クラス子どもだけではなく、保育者全体で子どもの成長や変化に気づき、情報交換を続けていきたい。	A	少人数ということもあり、子ども一人一人の対応は、充分に行われていると評価できる。
教師としての資質や能力・良識・適性	人間性を高めるための勉強ができているか？ 教職員の労務管理適正化。	B	今年度は、ミドルリーダーの教育が、浜松市私立幼稚園協会主催のマネジメント研修（4回シリーズ）に参加をした。その研修によつての学びが、教員間の打合せや情報交換の場に活かされていった。来年度は、新任が2名加わるので、この成果をつなげていきたい。	B	労務管理について、いろいろと見直しをして改定を行ったことは、評価できる。このことが実践されるようにお願いをしたい。
保護者への対応	保護者の育ちを支え支援することができたか？	A	今年度は、保護者の想いや考え方を受けとめ、それぞれの保護者に負担感のないアドバイスや提案を心がけてきた。今後とも、面談以外でも、お迎えの時など、気軽に話せる状況の中で、子どもの様子・成長を伝え、子どもが更に成長していくための具体的なアドバイスができるように専門知識を高めていきたい。	A	保護者との関係性は、とてもよくできていると評価させる。来年度もこのことが維持されるようお願いしたい。

地域の自然 や地域との かかわり	自然環境を生かした保 育活動が行われている か？ 地元自治会との協力関 係が出来ているか？	B	日頃からマラソンやお散歩で松林を利用し、季節の変化を感じながら遊んできた。今年度末には、防潮堤の竣工となり、さらに、あそびや活動範囲を広げていきたい。 園以外での避難の仕方を今後職員全体で確認していきたい。	B	この園でしか体験できないような ことのひとつとして、松林や海など の環境を利用した保育があると思 う。十分に活かして欲しい。
研修と研究	保育記録の取り方とそ の考察をさらに深化さ せていく。 公開保育や研修をと おして幼児教育の知識を 身につけていくことが 出来ているか？	A	今年度『SOAPによる子どもの記録の取り方を学び、その 実践により子ども理解を深めていく』ことを1年間かけて行 ってきた。その記録を通して、教材研究、環境設定、子ども 一人一人の実際について話し合ったが、日常的なレベルでそ ういったことが行えるようにしていきたい。	A	保育者としての専門性とは何か？ を見据えた研修が、行われるよう に期待をしたい。
外部 アンケート	保護者の学ぶ姿勢を援 助できたか？	A	概ね園に対する評価は、良好と評価できる。これからも、保 護者のレベルに合わせた対応、受け入れ、理解、共感をして いくことが大切と受けとめている。	A	来年度は、新任が2名加わると言 うことなので、是非、保護者対応 のバックアップをお願いしたい。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
労務管理	新しい就業規則に基づいた労務管理の実践を行う。
保育の質の向上	初任者教諭のバックアップを行っていく。聖心女子大学の河邊貴子教授を招き、園内研修を行う。
地域の自然を活かした保育を行う	防潮堤の竣工にともなって、松林などでの保育活動や遊びの充実を図っていく。